

— 住学協同への実験 —

筑豊ゼミ研究会報 5月号

NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター・筑豊ゼミ研究会報第 21 号 2015 年 5 月 10 日

5 月例会は 5 月 20 日(水)午後 7 時～9 時

[ひきこもり研究会のみ 5 月 日(木)午後 7 時～9 時 飯塚市民交流プラザ]

受付(独楽研究会)は視聴覚教室(4 号館 1 階)で行います。インフォメーション(連絡事項)等を、最初に行いますので、受付後午後 7 時迄視聴覚教室に待機してください。

市民遺産研究会(4401 教室):

1. 前期の活動の総括
2. 今期の活動方針の趣旨説明
3. 見学場所の候補地を挙げる

独楽研究会(4103 教室 視聴覚教室):

1. 松崎先生の学会発表の内容説明を聞く。
2. NHKの凄ワザのビデオを見る。

若者(不登校・ひきこもり・非行)研究会(市民交流プラザ):

～他の研究会の皆さんの視聴参加大歓迎です～

古代のロマンに酔う研究会

1. 遠賀川流域の古代について学ぶ
2. 魏志倭人伝を読む
3. 今後の活動、および組織づくり(役割分担)について

情報発信/データデザイン研究会(3 号館 3 階 3304-B:情報工房):

- Web 班: ☆ 筑豊ゼミホームページの「季節の写真」の不具合を解決
☆ ホームページ全体の見やすさの改善
- 広報班: ☆ 田川の「川渡り神幸祭」の撮影
☆ 動画(Aviutl)・画像(Picasa)編集の勉強

第28期筑豊ゼミがスタート!

新しい研究会「古代のロマンに酔う研究会〜ヒミコを捜そう〜」が生まれました!

4月15日、第28期筑豊ゼミ開講式が行われ、住民主体の4つの研究会、学生主体の2つの研究会と、昨年より一つ多い6つの研究会がスタートしました。第28期運営委員会主税事務局長の挨拶、開式の辞に引き続き、荒川剛学部長からご祝辞を頂きました。

各研究会の内容がそれぞれの研究会長から紹介された後、各研究会に分かれて、今後の活動方針等が話し合われました。



第28期筑豊ゼミ開講にあたって

近畿大学産業理工学部 学部長 荒川 剛



28期筑豊ゼミ生の皆様、開講おめでとうございます。2年前、筑豊ゼミを若返らせようという目的から、大学生を中心とした研究会を立ち上げ何とか活動を続けてきて今年で3年目にはいります。まだ、なかなか地域の方々に認められてもらうほどの活動もしていません。

データデザイン研究会は一応の成果が出ていますが、ピオトープ研究会はまだ大学のサークル的活動から抜けきらないところがあります。今年から、アドバイザーの先生もかわり、会員の幅も広げて活動を活発にして頂きたいと思います。

今年の統一地方選挙で期日前投票所を近畿大学に開設して頂きました県の選挙管理委員会の委員の一人が筑豊ゼミの2期生の方で、いろいろ話をさせて頂きましたが改めて筑豊ゼミの活動の大事さを感じました。

さて、筑豊在住の以外の方々もサブメンバーに加えて、「筑豊を見つめなおす会」(仮称)を立ち上げてはどうかという提案がございます。幅広く筑豊を研究材料にして頂いている方々をサブメンバーにして、筑豊を輝かすプロジェクトを立ち上げる研究会ができないか考えています。

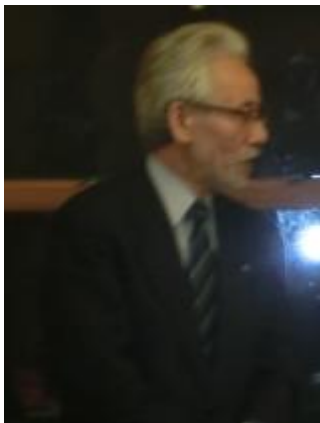
そのプロジェクトのコンセプトは市民参加型で、継続的で広く連携できるプロジェクトにする。
例えば、

- (1) 地域遺産の再評価—筑豊をテーマにされている報告の収集・検討
- (2) 新たな祭りの創設
- (3) 福岡—飯塚という経済的・地理的条件に近い都市(町)(外国も含む)との交流事業の検討などを考えています。

予算など心配な面がありますが、現在地方創生が推進されている時期ですから、我々も何かできるものがあるのではと思っています。

最後になりますが、筑豊ゼミに参加の皆様方の今年1年の活躍をお祈りしまして挨拶にかえたいと思います。

[ご祝辞を頂いた皆様]



小野地域づくりセンター副理事長



松崎先生



母里聖徳さん

第28期筑豊ゼミが目指すもの

第28期筑豊ゼミ運営委員長 菊川 清

第26期・第27期と同じタイトルで、私の話には全く進歩の跡がみられませんが、今日は、多くの学生さんの出席とともに、3月の募集要項にはなかった新しい研究会の紹介など、新しい息吹も感じられる開講式となりました。

昨年は近畿大学産業理工学部「地域連携研究センター」が開設されるなど、住学協同の活動にも、新しい動きもあり、第28期では各研究会が、大学や自治体あるいは産業界との連携の下に、住民目線での地域資源の発掘と調査・研究を進めていきたいと考えています。

第28期「筑豊ゼミ」の概要

1. 場 所 飯塚市柏の森11-6 近畿大学産業理工学部
2. 期 間 平成27年4月～平成28年3月
3. 会 費 地域づくりセンター 正会員 5,000円(年間) 学生会員 500円(卒業まで)
4. 研究会
 - ・「筑豊ゼミ・市民遺産研究会」 会長 白神精一 顧問 長弘雄次
 - ・「筑豊ゼミ・独楽研究会」 会長 笹原泰史 顧問 花元克己 アドバイザー 松崎隆哲先生
 - ・「筑豊ゼミ・古代のロマンに酔う研究会～ヒミコを捜そう～」 会長 藤江文雄
 - ・「筑豊ゼミ・ひきこもり研究会」 会長 野田隆喜
 - ・「筑豊ゼミ・ピオープ研究会」 会長 近藤友里 アドバイザー 金子哲大先生
 - ・「筑豊ゼミ・情報発信/データデザイン研究会」 会長 田中翔 アドバイザー 戒田高康先生
5. 新たな「研究会」を募集

皆さんの思いを実現する「研究会」を創ってみませんか。

運営委員長 菊川 清、および 事務局長 主税洋三 が 何時でもご相談に応じます。

(運営委員長、事務局長の携帯番号およびe-mail アドレスは末尾に記載しています。)

筑豊ゼミ・研究会報告

市民遺産研究会

会長 白神 精一



活動方針

27期は市民に分かりやすい飯塚歴史探索ルートを考え、「旧伊藤伝右衛門邸」をはじめ「いづか雛のまつり」に合わせグーグルマップを活用し、ホームページに掲載してきました。今期は見学会などの課外活動を中心とした活動を、次のような手順で進めていきます。

1. 見学場所設定(有名、無名を問わず、会員が「自分の目で確認したい所」を出し合う)
2. 資料収集(パンフレット・写真・記事等の収集)
3. 見学場所訪問(実物を自分の目で確認することで、良い点や改良点を見つけ出す)
4. 私ならこう紹介したい(収集した資料・現地での写真や感じた事を網羅して話し合う)
5. 報告書作成(市民遺産研究会員による「案内記事」作成)
6. ホームページへ掲載(報告書作成を出発点として、

ホームページの更新を心がける)

市民遺産研究会での見学会の他、他研究会のゼミ生や一般の方を対象とした見学会も計画しています。



独楽研究会

会長 笹原 泰史

第28期筑豊ゼミ 開講式



「日本の独楽資料館」にて一捻りで18分以上回る独楽(最長時間は20分)が出来上がりました。昨年は独楽の回転傾向について様々な調査を行いました。

今期も引き続き、近畿大学の先生のアドバイスを頂きながら、長く回る独楽をつくる研究、特に、27期でまだわからない「独楽がふらついた後、起き上がる現象」がなぜ起こるのか、「ガラス板の種類が独

楽の回転に与える影響」を学会発表も視野に入れた研究を行います。

また、筑豊を独楽の街として全国に発信する他、各地区でのイベントに参加して独楽回しの指導を通じて独楽の普及を進めたいと考えています。



研究内容

1. 長く回るために、心棒の長さ、けんの高さ、ガラス等の研究
2. 筑豊を「独楽の街」と全国に発信できる方法について研究
3. 学会発表等の対外発表を通じて大名独楽をアピールしていきます。

「日本の独楽資料館」及び各地区でのイベントに参加して独楽回しの指導を行う。

若者(不登校・ひきこもり・非行)研究会

会長 野田 隆喜



27期「ひきこもり研究会」として発足した会を、今期はさらに深化を目指して「若者(不登校・ひきこもり・非行研究会)」としました。

この3つの現象は筑豊においては全国平均をはるかに超える水準であり筑豊の未来を考える時に避けることのできない問題です。

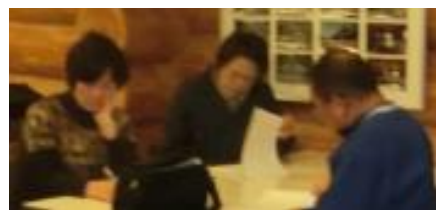
(実は我が国の将来に大きく影響する問題でもあるのです)

この課題の難しさは世代間・個人の価値観・そして家族のあり方や考え方でその理解は全く違います。場合によっては個人の責任を必要以上に指摘し追い込んでしまいやすく、また 家族ひいては「親」や「個人」の問題として片付けてしまいがちです。

仮に家族「親」の問題としても最終的には「様々な形での社会問題」となり、ひいては市民全体の「問題」となることは自明です。

そこで会としては

- 1) 不登校・ひきこもり・非行 の3課題について課題ごとに学び理解に努力する
- 2) ゲスト講師を招き公開講座をする
- 3) 何らかの形で研究成果をだす(何をするかは会員で協議)



古代のロマンに酔う研究会 ～ヒミコを捜そう～

会長 藤江 文雄



趣 旨：

- 学術的な研究ではなく、**豊かなイメージを膨らませ**、邪馬台国やヒミコを語り、**古代のロマンに酔う研究会!** そして「**ヒミコ祭り**」
- ・遠賀川流域は日本の黎明期を支え、古代文明が栄えていたことは、多くの古墳群、出土品、地名などが物語っています。
 - ・邪馬台国がどこに存在したのか? 定説がありません。

九州説 ⇄ 近畿説

活動内容：

1. 魏志倭人伝を読む
2. 遠賀川流域の古代について学習
3. 講師を招いて、北九州説の学習
4. 遺跡見学(フィールドワーク)
5. 祭りのイメージづくり、など



「ヒミコ祭り」:

自治体や商店街、文化活動団体などとの連携を視野に、28年度を目標。

(現在、春と秋に開催されている「遠賀川流域古墳同時公開」との連携も。)

ビオトープ研究会

会長 近藤 友里

大学の建造物の建て替える機会に、大学構内に環境教育の一環としてビオトープの建設が計画されています。学生の立場からどのようなビオトープが良いか提言する為、ビオトープに関する講演や見学などを行ってきました。

その中で、本学部の周りに、池、川、林などもあり、ネットワークは十分形成されていること、正門の入り口斜面はこのまま保全されれば、すでにビオトープになっていることを学びました。

昨年度の見学会が、ただ見るだけになってしまった反省から、今期は、ビオトープ内に生息している、生物、植物などを写真に収め、後でデータを整理し記録に残すことが重要で、専門家を講師にお願いし、説明を聞きながら見学する予定です。

28期の見学先として、北九州市の響灘ビオトープが候補に挙がっています。

情報発信/データデザイン研究会 (pdd 研)

会長 田中 翔



戒田先生がアドバイザーとして設置された標記研究会は、下記に示す特徴に加えて、具体的な研究会運営について、以下の8点を計画している。

研究会をwebサイト保守・管理班と広報班に分けて運営する。

web 班:

筑豊地域づくりセンターおよび筑豊ゼミのウェブサイトにおける毎月の研究会報のアップロードや開催行事の告知などの更新・管理作業を行うと同時に、ゼミ内外からの意見を反映しつつウェブサイトの視認性や機能の改善を行う。

Bootstrap などのフレームワークを用いたウェブサイトの制作や改善を通じて、技術の学習・習得を目指す。

ウェブサイトやFacebook, Twitterなどの各ソーシャル・ネットワーキング・サービスの活用を通じた情報発信や、動画制作班との連携を通じてより効果的な情報の発信・周知方法の研究を行う。

広報班:

多くの人に地域の活動を広報するため、福岡県で催されるイベント・各筑豊ゼミ研究会での活動より画像や動画を作成し、投稿する。

撮影については、近畿大学にて設立されている写真部と連携を行い、研究会のゼミ生と写真部の部員でイベントの撮影に赴く。

センター会員および筑豊ゼミの各研究会との連携を深める。そのために、研究会の日常的な活動はゼミ室などで頻繁に行うが、月に1回のまとめ(サマリー)を、ゼミ定例日の毎月第3水曜日の17時から行い、センター会員や筑豊ゼミ生が自由に参加できるようにする。



情報交差点

筑豊ゼミ: <http://www.chikuzemi.com/>

e-mail: chair@chikuzemi.com (運営委員長)

: sec@chikuzemi.com (事務局長)

筑豊地域づくりセンター: <http://www.chikuhou-jugaku.org/>

筑豊での話題やイベント情報を掲載します。皆様からの情報をお待ちしております。
予告だけでなく、結果報告もOKです。(上記アドレスまで)

「明治日本の産業革命遺産」 世界遺産に登録を勧告

世界文化遺産への登録を目指している「明治日本の産業革命遺産」について、ユネスコの諮問機関・イコモス(注)は、世界遺産に登録することがふさわしいとする勧告を行いました。

内閣官房の推進室の担当者が5月4日夜、記者会見し、明らかにした勧告の内容は、

①「明治日本の産業革命遺産」を世界遺産に登録することがふさわしい、

②23の資産をいずれも構成要素として認める、

③名称については「明治日本の産業革命遺産九州・山口と関連地域」を、

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」と変更したうえで、

登録することがふさわしいとしています。

23の資産の内、福岡県の八幡エリアの2つの資産はいずれも製鉄に関連する施設(1つは北九州市の「官営八幡製鐵所」の「旧本事務所」、「修繕工場」、「旧鍛冶工場」、もう1つは中間市の「遠賀川水源地ポンプ室」)です。

筑豊地域の「三井田川伊田堅坑橋・同二本煙突」と「旧伊藤伝右衛門郎」は、当初構成要素として含まれていましたが、最後の段階で「関連資産」とされた経緯があります。

明治30年～明治末、全国出炭の50%を超える我国最大の産炭地であった「筑豊炭田」を抜きにして「官営八幡製鐵所」の開設は有得ませんでした。

右の写真(新日鉄住金八幡製鐵所所蔵)は東田第一高炉に火入れされる前年の明治33年、伊藤博文首相視察時の記念写真で、安川敬一郎、麻生太吉、伊藤伝右衛門などの筑豊の炭鉱創業者が参加しており、鉄と石炭のつながりの深さが窺われます。



すなわち、「筑豊炭田 近代化産業遺産群」は筑豊の石炭と北九州の鉄を繋いで、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」に不可欠の関連資産なのです。

筑豊近代遺産研究会(会長:安藤龍生田川市立石炭・歴史博物館長、初代会長は筑豊ゼミ生の長弘雄次さん)では、この機会を捉えて、筑豊の近代化産業遺産群を「明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」の「関連資産」としての重要性を発信していきたいと意気込んでいます。

注)イコモスとは、国際記念物遺跡会議(ICOMOS/ International Council on Monuments and Sites)のことで、文化遺産保護に関わる国際的な非政府組織(NGO)であり、ユネスコの諮問機関として、世界遺産登録の審査、モニタリングの活動を続けています。

田川地区の神幸祭

千年以上続いているという4月初旬の英彦山神宮神幸祭に始まり、風治八幡宮川渡神幸祭(http://www.joho.tagawa.fukuoka.jp/dentou/page_75.html)春日神社神幸祭(岩戸神楽)(http://www.joho.tagawa.fukuoka.jp/dentou/page_653.html)まで、彦山川流域をだんだんと下りながら、各地の神社、50ヵ所以上で催されているといわれます。

50ヵ所以上?「神幸祭・地域名」でのWeb検索では、とても50ヵ所は見つかりません。

福岡民俗芸能ライブラリー(http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/e_mingei/)の田川市・郡に掲載の獅子舞や楽打ち、祇園祭、盆踊りなど、全てを数えると50ヵ所程度になりますが。

皆様の地域で開催される神幸祭りの情報をご教示頂きたく存じます。

かわさきパン博 2015

<https://ja-jp.facebook.com/KawasakiPanPaku>

日時:5月24日(日)10:00~16:00

場所:川崎町民会館、中央体育館ほか

今年で4回目を迎える「かわさきパン博」は開催日を5月にし、よりパワーアップして皆様をお迎えます。今年も福岡県内外からたくさんのパン屋さんが集います。その他会場を周遊するスタンプラリーや昨年大好評だった(株)ドンク顧問の仁瓶利夫氏による講演会も開催。来て、食べて、体験して楽しめるイベントです。

発行: NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター 第28期筑豊ゼミ

責任者: 第28期筑豊ゼミ運営委員長 菊川 清

編集者: 第28期筑豊ゼミ運営委員会事務局長 主税 洋三

住所: 〒820-8555 飯塚市柏の森 11-6 近畿大学産業理工学部気付 第28期筑豊ゼミ

連絡先: 090-9485-5985 (運営委員長 菊川) 090-8624-2886 (事務局長 主税)

e-mail: chair@chikuzemi.com (運営委員長) sec@chikuzemi.com (事務局長)